

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373800396
法人名	シルバーサービス株式会社
事業所名	グループホーム安心樹
訪問調査日	平成 19 年 10 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 8 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2373800396
法人名	シルバーサービス株式会社
事業所名	グループホーム安心樹
所在地	愛知県小牧市大字池之内字蓮池388番地 (電話)0568-47-6388

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	12月8日

【情報提供票より】(平成19年9月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8人, 非常勤 12人, 常勤換算 3人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建一部RC造り
	2階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	〇無		
保証金の有 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月27日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82,7歳	最低	66歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人胡蝶会サンエイクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

森に囲まれ、広々とした建物のまわりには、栗や柿が実をつけ、誰もが手に出来るような自然があり、利用者やスタッフはゆったりと共同生活をしている。防災対策は万全とし、避難訓練は行き届き、保管庫には食料や物品がそろっていた。敷地内での緊急時のテントの設置訓練や自炊訓練まで行われるなど、利用者には不安のない生活を営む事ができるよう活動されていた。ホームの敷地内には梅の樹があり、毎年利用者と職員で梅を漬けている。又畑には季節の野菜を作り、旬の物を味わっている。猫と一緒に入居となった利用者の猫はホームの猫のように他の利用者にも愛されている。職員は利用者がいつも「その人らしく」を心がけ真心のこもった支援しているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市からの指導を受けられ、話し合いの場を持ち早急に改善を行いサービスの質の向上に努められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的をどのように取り組む事が出来るのか、具体的な対策が取れれていなかったが、外部評価を活かし全員で勉強会を行ない改善できるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	概ね2ヶ月毎に開催している。推進会議の中で東側の庭に出る際に段差があり事故の危険性があると指導を受け、環境にあったスロープの設置を行なうなど改善している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時の説明を十分に行い不明を無くす努力や家族訪問時に、不安がなく、相談が出来る機会を作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	化粧ボランティアの訪問や、祭りの開催時には小中学生の訪問があり一緒に過ごされたり、区長から機能向上の為、初穀の仕分けの依頼があり、出来たものをプレゼントされたり、日々交流をされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「社会の進展に寄与したもの」並びに「豊富な知識と経験を有する者として高齢者を敬愛し、生きがいのある健全で安らかな生活が送れるよう地域活動に参加できるよう、また機会が持てるよう努力されている。」・・・である。職員はそれを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、施設独自の理念を共有する目的で全員が一体となり朗読し、意識付けられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所主催の盆踊りなどの開催時に小中学生が訪問したり、地域のボランティアの人による化粧が行なわれるなど、又地域の盆踊りや夏祭り・秋祭りなどにも参加して交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	週1回管理者とチーフは話し合いの場を持ち、月1回の職員との会議で利用者に関する事など改善に向けて具体的な話し合いが行なわれその中で外部評価の活用をしている。	○	年1回の外部評価を活用して全職員で自己評価を行い見えない部分の発見をされ事業所のさらなる飛躍を望む。
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、9月の推進会議は現在取り組んでいる「緊急時対応訓練について」等などの報告を行い、意見をもらい、それは早急な改善策を講じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小牧市介護保険課職員や地域包括支援センターの職員など運営推進会議の開催時は出席してもらい事業所の実情や取り組みに触れてもらう、また管理者は市町村には相談などに出かけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的に家族宛に暮らしぶりや生活状況・金銭管理報告を行ない、心身の状態変化の時は電話で様子を報告している。又家族来訪が毎日や月1回ありその時にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に何でも話してもらえる雰囲気作りをしている。家族からの要望は職員で話し合い協議し出来るだけ取り入れるように努めている。今後地域推進会議を通して公表の場を持ち、事業所以外の外部の人に家族等が意見や苦情を表せる機会や場がある事の説明にも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時には利用者に不安を持たせないように、馴染みの職員と二人で接し、利用者が慣れ親しむまで指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を行い、認知症やメンタルケアの勉強は月に1回程度施設内で行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会を通じ月1回、関連事業者などと学習会や交流を持ち質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の不安を無くす為に本人が慣れ親しむまで、本人のペースを見ながらサービスを開始する。入居時に一緒に暮らしていた動物と入所する事が出来、また家族の来訪時は一緒に食事作りを行い一緒に食べ、大きなベッドと一緒に寝ることが出来るなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生きがいのある安らかな生活が送れるよう努めている。常に挨拶を心がけ、人間らしい生き方を考え、毎年ホームで収穫のある梅を利用者と職員で漬けるなどもしている。職員は毎日がわからないから楽しいと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や表情などから一人ひとりの思いや、暮らし方を家族の情報を取り入れ本人のペースを乱すことなく生活できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、家族からの聞き取りを行い、意見交換を行ない、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況が細かく記録し、評価を行ない、定期的な見直しや、状態変化があればその都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定認知症対応型通所介護利用者1名は生活の限界になった時グループホームへ住み替え出来る支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医の往診があり、入居前の主治医との連携を取りながら適切な医療が受けれるよう、利用者や家族に安心できる医療を目指されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の対応の指針を書面で説明を行い、家族に納得していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の取り扱いには十分注意を払い、また他の家族や外来者に対しても利用者のプライバシーに関する事は話さず、本人の家族にも必要以上の情報収集は行なわないよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対して決まりごとを作らず、本人の自己決定により毎日を過ごす事の出来る援助をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を一緒に行い、食事の支度がされ、同じ食卓で全員が食事を楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日の入浴は行なっていないが、利用者に声かけを行い、利用者の希望を確認して一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた入浴の配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りを行っていた利用者には職員が指導をしてもらい一緒に季節の作物を作ったり、調理の得意な方には、方法を聞きながら作業を行い、散歩に出かけたり、「その人らしく」を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候を見ながら、利用者の希望があれば買い物同行を行ったり、散歩や遠足に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全く鍵をかける事はなく、利用者の居場所を常に把握し、利用者が外へ出そうな様子を察知したら止めることがなくさりげなく、一緒についていき、安全の配慮がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは2月に職員と利用者や地域のボランティアを交え防災訓練を行い、その時には防災対策チェックリスト表を参考にしたホーム内の柿木広場に災害物品倉庫と食品倉庫の設営訓練も実施している。11月には消防署の職員の協力を得て避難訓練を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はホームの畑での収穫出来る物など使用して新鮮である。食事は毎食カロリー計算しており栄養バランスは概ね確保できている。水分量も利用者個々に記録されており、各人の健康管理は把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広々とし、壁際にはゆったりと出来るソファが置かれ、清潔感を漂わせ日が差し込み落ち着ける空間が設備されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や仏壇が置かれ、居心地のよい部屋作りを本人と家族と共に工夫され、ベッドは家族と共に寝れるよう広々としていた。		